様式3

学校番号 19

令和5年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立若松高等学校

自己評価

学校運営計画（4月）			評価（総合）
学校運営方針	「確かな学力」の向上を図り、知・徳・体の調和のとれた「豊かな人間性」を培い、国際社会に主体的に対応できる「生きる力」を育成する。 →120周年に向けた新たな第一歩を踏み出す（これまでの成果を総括し、シフトアップとブラシュアップを図る）		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
創立110周年の節目である周年行事を終え、さらなる規範意識の向上、進路実績や部活動の躍進がみられ、保護者や地域からの信頼も高まり、校内全体の教育力向上をみることができた。また、これまでのきめこまやかな指導（生徒の学力や個に応じた教育支援）によって、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育成することができた。今後も、地域創生型学習「学故創新・若松学」を継続し、本校の真の教育力を内外に示すとともに、体験的キャリア学習の充実を図り、生徒一人ひとりの可能性を最大限引き出し、伸長し、「生きる力」を身につけた生徒を育成していきたい。	礼儀正しく、規範意識の高い学校をつくる	・すべての生徒が場に応じた挨拶ができる ・学校内外を問わず、ルールを守って生活することができる ・出席皆勤等校内外より、表彰される生徒を各学年延べ60名以上を輩出する	
	若高キャリア教育プランを推進する	・多岐に亘る希望進路の100%実現を図るため、希望進路に合わせた若高キャリア教育プランを推進する ・進路実現のために、充実した個別指導を展開する	
	教科指導力と生徒指導力を高める	・確かな学力を身につけさせる為の授業力の向上に努めるとともに、全ての教師がICT活用能力を習得し、授業にいかす ・自学による学力向上を図るため、効果的な課題作成（宿題や週末課題等）を行い、内発的な学習意欲を喚起（生み出す）する環境づくりに全教職員で取り組む ・生徒の問題行動を見逃すことなく、時機をとらえ組織的な指導を行うとともにいじめを絶対に許さない環境を生徒とともにつくる	
	学校行事や部活動を活性化させ、元気あふれる若高を創る	・生徒会、ブロックリーダー、委員会活動、部活動の活性化を図り、学校行事や日々の活動をとおして課題解決能力を育成する ・部活動加入率80%を目指し、県大会出場部活動を増やす ・素直で明るく、文武両道に努力する心身ともにたくましい生徒を育てる	
	地域および小・中学校との連携を深め、信頼度を高める	・地域との繋がりを大切にし、小・中学校や関係機関との連携を深め、地域の期待に応える「選ばれる学校（→地域に求められる学校）」づくりに努める	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務部	教務	確かな学力の育成のための魅力ある授業の展開	・ICTを効果的に活用して、一人ひとりに考える力のつく効果的な授業手法の確立を目指し、生徒にとって魅力的で質の高い授業を提供し、確かな学力の育成に努める。				
			・3年生の特色あるコース（クラス）を活かした、進路実現のための授業の充実を図り、各学年とも出席率99%を目指す。				
			・観点別評価の特性を活かし、シラバスを利用しての授業評価を徹底する。また、評価していく中で、授業改善の場としても活用していく。				
		授業規律の徹底と家庭学習の定着	・各教科における日々の宿題や週末課題の徹底を図り、生徒の主体性の育成に努める。また、自習室の有効活用を促進し、上級学校進学を目指す中上位層の底上げを図る。				
			・チャイム席を守る等の、授業環境を整え、授業内での規範意識を高める指導を行う。				
	企画	中学生、および中学校教員への効果的な広報活動の推進	・中学校訪問において、中学校側に他校にはない本校の特長（入試方法、進路実績、部活動、地域創生、学校環境等）を情報提供することで、中学生の本校志願を強めさせる。				
			・学校案内パンフレット、ポスター、広報紙、リーフレット等は中学生の視点に立って作成する。ホームページは、各学年、分掌、部活動が自主的に中学生を引きつけるコンテンツをタイムリーにアップしていく。				
			・中学生体験入学と学校説明会は、計350名以上の参加者を目指す。（昨年度：体験入学270人、学校説明会27名参加）申込方法は、中学生によるWeb申し込みを継続し、体験入学の内容充実を図る。				
		防災意識の向上と防災教育の充実	・火災とともに、地震、風水害、津波などの自然災害への意識を高めさせ、災害に遭遇した際に適切な行動がとれるような防災教育を実施する。				
			・防災に関する資料を積極的に校内掲示する。また、各教科指導の中で、さまざまな防災に関する話題を提供することで、防災意識の啓発を図る。				
		PTAとの連携による学校活性化	・オンラインによるPTA総会を実施し、書面決議を行うことでPTA活動を円滑にスタートさせる。また、3年間委員会活動が十分できていないため、PTAと各担当教員との連携強化を図るとともに、PTA活動の活性化を図る。□				

生徒指導部	生徒指導	基本的生活習慣の確立 「生きる力」を備えた生徒の育成	・必要に応じ登校指導・下校指導を行い、社会のルールやマナーを守れる生徒を育成する。				
			・規範意識を高め育てる指導の実践を目指す。				
			・ネットパトロール等の指導を徹底・強化する。				
		元気溢れる若高生を創る	・各行事をとおして課題解決能力、「豊かな人間性」を育成する。				
			・部活動加入率80%以上を目指す。				
			・全生徒が学校の広告塔となり校内外において責任ある行動ができるよう育成する。				
	保健	感染症予防	・新型コロナウイルス及びインフルエンザ等の感染症予防に努め、学校行事等を行える教育環境を整える。				
		新校舎改築に伴う美化活動の推進	・新校舎での授業が開始されたので、環境整備及び美化活動を活発に行うとともに、校内の安全管理を十分に行い教育環境を整える。				
		健康管理・安全面、衛生管理の徹底	・生徒の健康診断や救急救命講習会等を実施し、安心、安全に学校生活が送れるよう努力する。 ・生徒の情報を共有し、最適な指導が行えるよう教職員の共通理解を図る。				
進路指導部	進路	生徒の学力向上と 主体的な進路選択能力の育成	・朝課外において習熟度別に講座を実施するなどして、より生徒の理解度に合わせた授業を行う。また、全学年で『スタディサプリ』を使って「振り返り学習」を行うことで基礎的・基本的な知識の定着を図る。また、『到達度テスト』を受験させることで生徒の理解度を図り、学習教材『ベースメント』を課外等で活用することで『到達度テスト』への意識付けを行う。。				
			・1年「夢授業」「職業ガイダンス」、2年「インターンシップ」「上級学校授業体験」、「若高シンポジウム」などのキャリア教育関連の行事を通じて、自らの将来のビジョンを描く能力やその実現のために今どうすべきかを考え、実行する能力の育成を図る。				
			・『若松学』の学習に1・2年次に体系的に取り組むことで、地域の魅力や課題に気付き、考え、行動を起こしていけるような能力や資質を育成する。				
			・卒業生による「就職座談会」や企業による「職業ガイダンス」・「現場見学会」などを通じて、就職希望者の勤労観・職業観の育成を図る。				
		生徒それぞれの希望進路の実現 国公立大学：10名 四年制大学：50名 就職内定率：100%	・高大教育連携講座や進路行事において、生徒の主体的に学ぶ姿勢の育成を図り、小論文作成能力や社会の諸問題に対して自ら解決策を考える能力の育成を図る。				
			・課外の内容の精選を行い、より生徒のニーズに合わせた形で課外・補習を行う。また、推薦・総合型選抜入試対策として個別指導を充実させる。そのために、学年・各教科との連携を図る。				
			・就職希望者に対しては、校内での面接指導やSPI対策講座、外部講師による面接指導を行い、第1希望企業の内定を目指す。				
	人権・同和教育推進	人権・同和教育推進の取組の充実	・様々な教育活動を通して、人権を尊重することの大切さを学ばせるとともに、教師自身の体験や経験から得たことや「伝えたいこと」「訴えたいこと」の伝達といった、心の部分を深化させることで、人権を尊重する「ねらい」や目的を持って取組を進める。				
			・特設授業では、外部講師の招聘や視聴覚教材の効果的な活用など、生徒の実態に応じて創意工夫した授業を展開できるようにする。				
			・教職員に対し人権・同和教育に関する研修会等への参加を促すことで、人権意識のさらなる高揚を目指す。				
		就学・修学・進路保障の取組を通した「生きる力」の育成	・統一応募用紙や違反質問に対する学習を充実させることで、生徒一人ひとりの人権が保障された進路実現に向けての取組へとつなげられるようにする。				
			・就学支援金や各種奨学金に関する情報の提供や活用を通して、生徒やその家庭が、経済的な見通しをもって進路実現を図ることができるようにする。				
			・生徒情報交換会等を通じて、生徒やその家庭に関する情報を教職員間において共有することで、適切な対応や支援ができるようにする。				
		人権侵害である「いじめ」のない学校づくり	・クラス担任や学年団、教職員全体での連携から、早期の解決へとつなげることができるようにするとともに、その後の様子などから、経過について見守る一助となる。				
			・毎月実施する「いじめアンケート」「学校生活アンケート」の結果などをもとに、早期の状況把握から、いじめを起こさせないことを目指した対応に活かす。また、アンケートの実施方法や内容等を適宜改善し、さらなる効果的な取組へと繋げられるようにする。				

学年経営部	研修	職員研修・若年教員研修の拡充	・現状を鑑みながら、時世と職員のニーズに対応した研修を職員研修として計画、実践する。				
			・各分掌の先生方と連携して、各段階に応じた研修が充実できるように研究授業の参観を促す。				
			・先生方の高めたい資質・能力に応じて研修が受講できるように、校外研修情報を積極的に提供する。				
		図書館利用の促進	・図書委員による図書館通信の発行により、委員会活動の活性化と書籍の充実化を図る。				
			・一年生を対象とした「図書館オリエンテーション」をはじめとして、全学年対象の「朝読書週間」「読書の時間」などの企画を推進して、生徒が読書を習慣することにより、一人あたりの貸出冊数の増加を目指す。				
			・選書委員会の指導助言のもとに図書館資料を充実させ、図書館利用者の増加を図る。				
	1学年	社会性、人間性の向上	・自律した人間として遅刻や欠席の生徒を出さない指導を行い、年皆勤60名以上を目指す。				
			・授業に臨む態度や挨拶、掃除など、常に礼儀を重んじることのできる生徒の育成を図る。				
			・他者に対する思いやりを持って、生活することのできる生徒を育成する。				
		学習教育、キャリア教育の充実	・基礎学力・学習習慣の定着に向けた取り組みを随所に図り、進路実現に向けて努力できる環境を整える。				
			・進路講演会等を工夫して活用することで、生徒自身に自身の進路について見通しを持たせる。				
			・朝のHR前に「朝学・朝読」、コンクール等の機会を設定し、落ち着いた雰囲気づくりや学習意欲の向上を図る。				
		生徒個々に応じた円滑な対応	・リーダー育成を図り、適宜活躍の場を設けるとともに、生徒主体で学年が動くような体制を整える。				
			・学年団や分掌等で密に関わり、フォローが必要な生徒の対応を迅速かつ円滑に、学年全体で行う。				
			・保護者との関わりや業務に関して、先生方一人ひとりの負担の是正を図る。				
	2学年	基本的生活習慣の確立	・時間厳守、安易な遅刻、欠席、早退をさせず基本的生活習慣を確立させる。				
			・出席皆勤50%を達成する。				
			・挨拶や場に応じた適切な言葉遣いを意識させ、他者から信頼される生徒を育成する。				
		進路目標の決定と主体的な学習習慣の確立	・進路に応じた指導を行い、考査や模試において振り返りを習慣化させる。				
			・課題の提出を徹底させ、家庭学習時間を確保することで、自ら学習する意欲を高める。				
			・授業に積極的に参加し、課題や小テスト、提出物など疎かにさせない指導を徹底する。				
		将来像を”描く”力の育成	・学校行事においてそれぞれが役割を持ち、責任感やリーダーシップを発揮する場を設ける。				
			・様々な教育活動を通じてこれからの将来像を描き、主体的に進路選択を行う機会を設ける。				
			・様々な教育活動を通じて良好な人間関係を築こうとする態度や姿勢を養う指導を行う。				
	3学年	進路意識の高揚と個に応じた適切な進路指導の充実	・安易な妥協を許さず、高い進路目標を設定させ、学年全体が一丸となって希望進路実現を目指す。				
			・模試の成績分析と共有を行うとともに各種の研修に参加して、適切な指導ができるようにする。				
			・自習室の環境を整え、自学力を向上させる。				
		最高学年として自覚と誇りを持つ、下級生の模範となる生徒の育成	・全校集会や学校行事については、ブロックリーダーが統率するとともに学年で範を示す。				
			・社会人として求められる「時間の厳守」、「挨拶の励行」、「清掃の習慣」を身につけさせる。				
			・安易な欠席を許さず、1ヶ年出席皆勤50名以上を目指す。				
		学校行事の充実	・学校行事における教育的効果を向上させるとともに、主体的に 活動できる生徒を育成する。				
			・前年を踏襲するだけでなく、新しいものを生み出す意識を持たせ、行動させる。				
			・協働の体験を通して、社会や集団の形成者としての資質・能力を身につけさせる。				